

大阪ブルー・オーシャン・ビジョン 実行計画

概要版

令和3年3月

大阪府・大阪市

∞「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」実行計画について

背景

○海洋プラスチックごみ

- 2019年6月に開催されたG20大阪サミットで、「2050年までに海洋プラスチックごみによる追加的な汚染をゼロにする」ことをめざす「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」がG20首脳宣言において共有されました。
- 2025年に大阪・関西万博を控える大阪府、大阪市は、G20開催に先立ち、2019年1月に「プラスチックごみゼロ宣言」を共同で行いました。

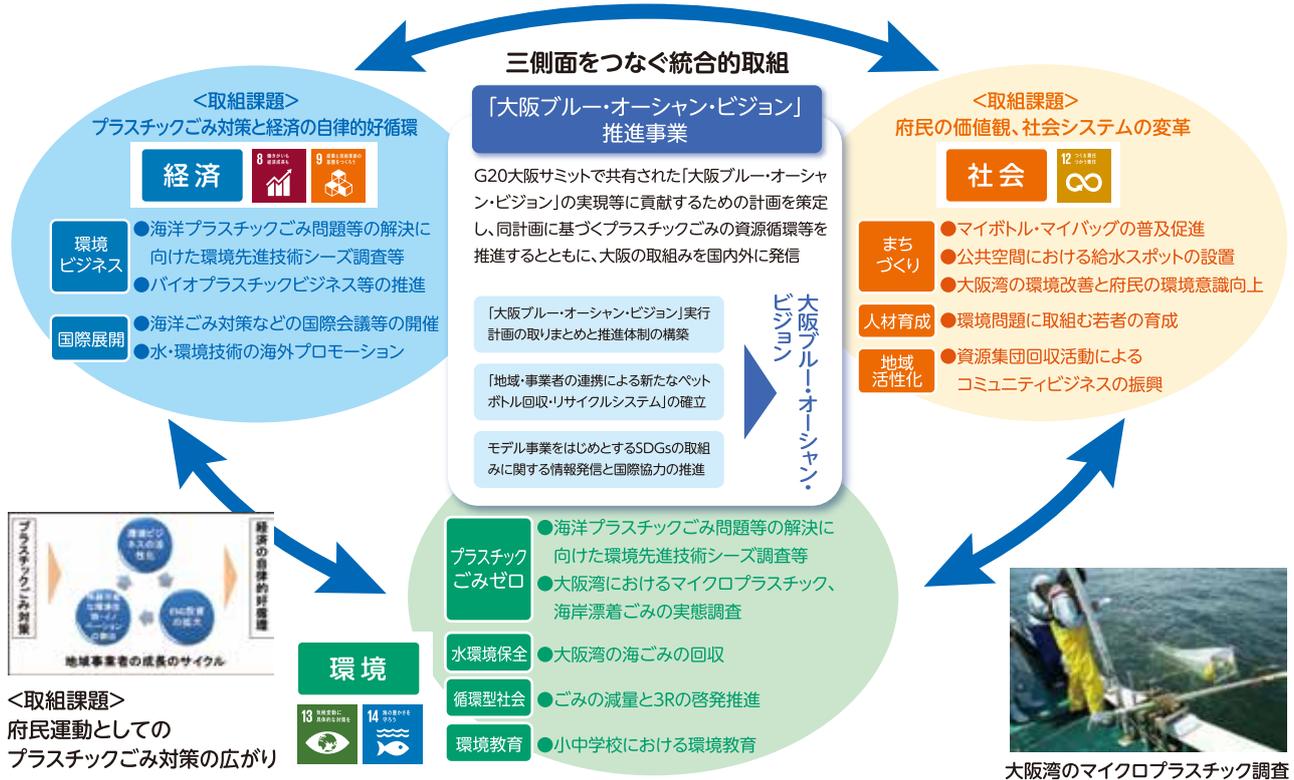
○大阪市の水環境

- 2019年12月に策定された「SDGs達成に貢献する環境先進都市」の実現をめざす「大阪市環境基本計画」の水分野の個別計画として施策を展開していきます。

自治体SDGsモデル事業

- 大阪府・大阪市の共同提案が内閣府の「SDGs未来都市」に選定され、また、自治体SDGsモデル事業として『大阪発「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」推進プロジェクト』が選定されました。
- 大阪府・大阪市では、「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」を世界に先駆けて推進するため、住民や企業、市町村など様々なステークホルダーへの関わりがあるとともに他の自治体等への波及が見込まれ、SDGsの特性をわかりやすく体现できる取組みとして、経済、社会、環境の三側面から、3R+Renewableなどの普及啓発や、海岸漂着ごみの実態調査、海ごみの回収などを府域全域で幅広く実施します。

『大阪発「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」推進プロジェクト』



本推進事業は、大阪府・大阪市の共同で自治体SDGsモデル事業として実施するため、府が策定した「大阪府海岸漂着物等対策推進地域計画」と目標を共有化し、相互に計画や施策の内容を反映しています。

計画期間

- 目標年度はSDGsのゴールを踏まえ2030年度とし、2025年度を目途に見直しを実施します。

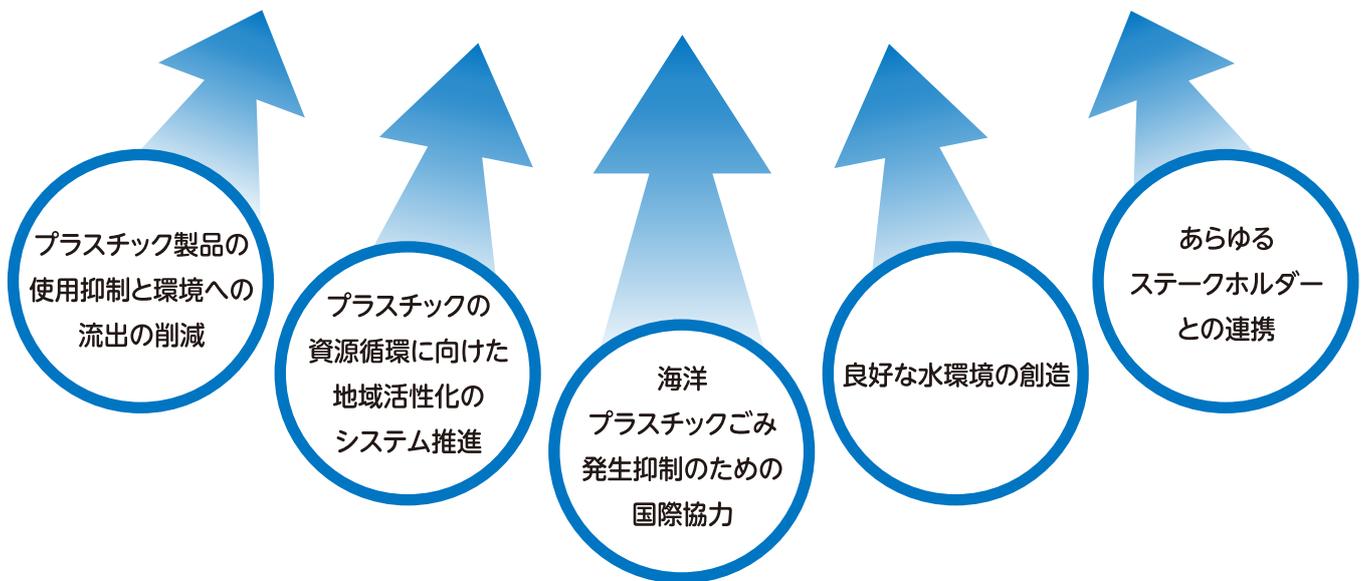
∞ 「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」実行計画のコンセプト

めざすもの

- ①海洋プラスチックごみの新たな汚染ゼロの実現に寄与
- ②大阪市環境基本計画の水分野の個別計画としてSDGsの達成に貢献

計画の目標

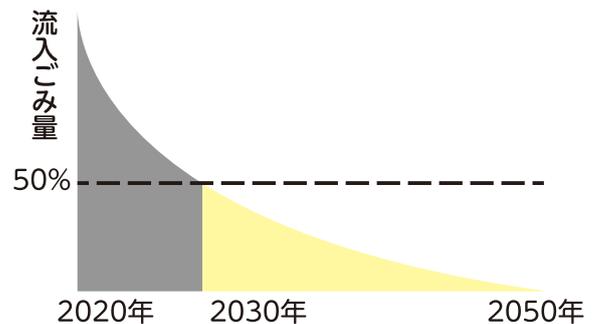
- ①2030年度に大阪湾に流入するプラスチックごみの量を半減する。
- ②河川・海域の水質に係る国の環境基準を100%達成、維持するとともに、水環境に関する市民満足度を40%まで向上する。



目標設定

○ごみ削減量

大阪湾の漂流ごみの8割以上を占めるプラスチックごみの削減をめざすためには、「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」における「2050年までに海洋プラスチックごみによる追加的な汚染ゼロ」に整合した目標をわかりやすく設定することが有効と考えられます。大阪湾に流入するプラスチックごみの量を、現状を100として、2050年度のゼロからバックキャストして設定しています。プラスチックごみの量については、「大阪府海岸漂着物等対策推進地域計画」に基づき実施される調査により把握します。



■ 流入ごみ量削減のイメージ

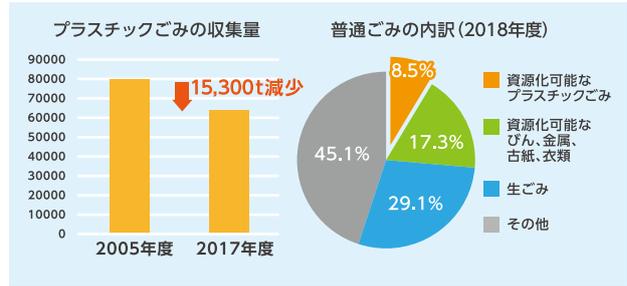
○市民満足度

市民満足度について現状の満足度(20%)の2倍として設定します。

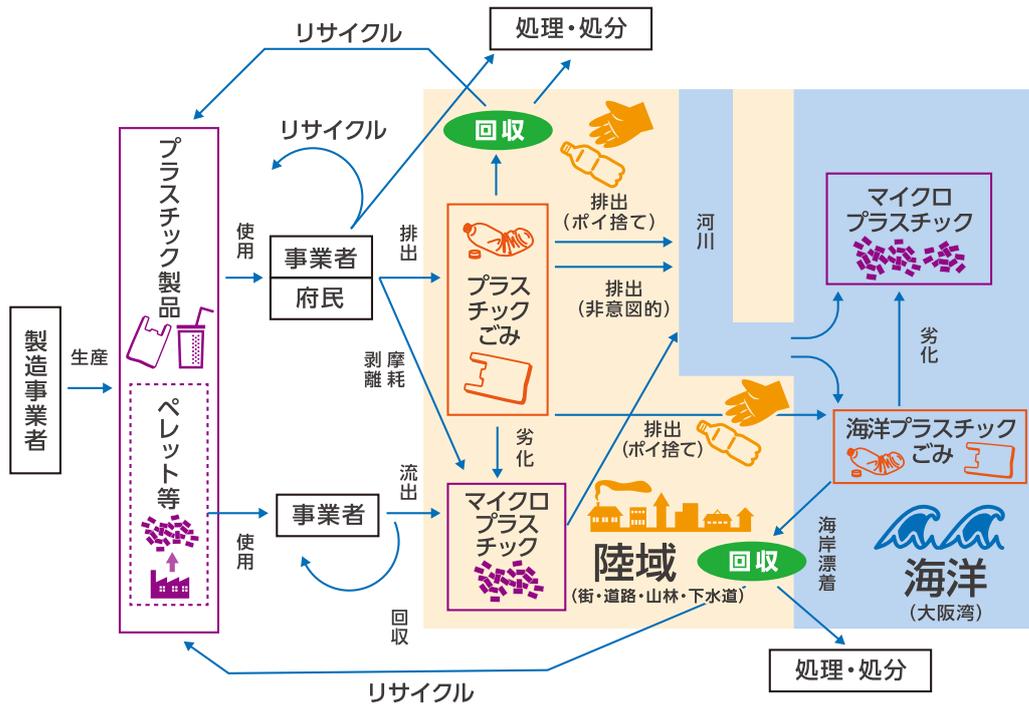
∞ 現状分析と課題

○海洋プラスチックごみ

- 海洋プラスチックごみは海外から流出するだけでなく、日本から流出したごみも含まれることから、世界全体の課題としての対処が必要となります。
- 大阪湾における海洋ごみの約7割は陸域からの流入であり、その約8割がプラスチックであることから、流域圏の内陸部地域と沿岸地域が一体となった広域的な取組みが必要となります。
- 大阪市が収集するごみの中には資源化が可能なプラスチックごみが約8.5%含まれており、さらなる排出抑制が必要となります。



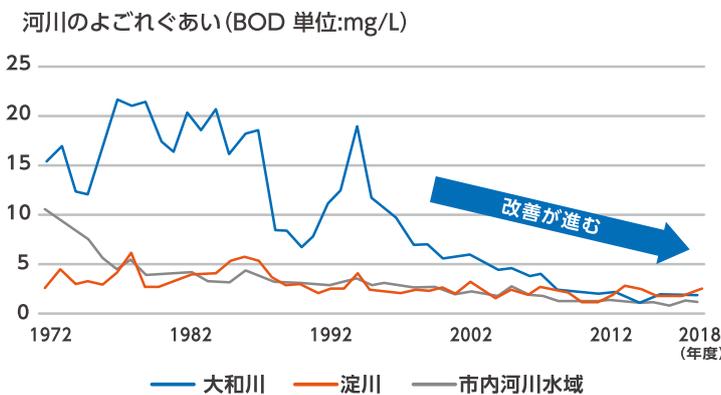
▶大阪市域におけるプラスチックごみの状況



▶海洋プラスチックごみ発生プロセスのイメージ

○大阪市の水環境

- 川や海のきれいさ、水辺の親しみに関する市民の満足度は3割程度にとどまっており、水環境に係る今後の課題として、水辺空間を含めた水環境のさらなる改善を進めていくことが必要となります。



川や海等の水のきれいさに対する市民満足度



「2019年9月実施 民間ネット調査結果」より



∞ 目標達成に向けた取組み

柱1 プラスチック製品の使用抑制と環境への流出の削減



- 方向性
- 新たなプラスチックごみを発生させないライフスタイルへの変革
 - 海洋プラスチックごみの削減に向けた対策・調査研究
 - まち美化の推進
 - 環境教育・啓発の推進

取組み例

- エコバッグやマイボトルの利用の促進
レジ袋削減に向けた啓発活動やエコバッグの普及、マイボトルの利用啓発や給水スポットの普及に取り組みます。



エコバッグの普及啓発活動



マイボトル用給水スポット「水色スイッチ」

- プラスチックごみの実態把握
より詳しい実態が把握できるよう、海域及び陸域において、プラスチックごみやマイクロプラスチック等の調査を実施します。



マイクロプラスチック調査

- その他の取組み
- 住民が参加しやすい清掃活動の実施
 - 河川・海面清掃の実施 など

柱2 プラスチックの資源循環に向けた地域活性化のシステム推進



- 方向性
- プラスチック(ペットボトル)の資源循環の促進
 - 新たなペットボトル回収を通じた地域活動の活性化の促進

みんなでつなげるペットボトル循環プロジェクト



※ペットボトルは、古紙・衣類等と異なり、廃棄物処理法上における「専ら再生利用の目的となる廃棄物」とならず廃棄物に分類されますが、この取組みでは、事業者が経済合理性に基づいた適正な対価をもって、地域コミュニティと有償で売買取約を締結することを条件としていることから、ペットボトルを廃棄物ではなく「有価物」として取り扱います。

大阪市は、全国に先駆けて、この考え方を導入して取り組んでいます。

現在資源ごみとして行政が回収している家庭から排出されるペットボトルについて、地域コミュニティ(地域活動協議会等)と事業者が連携・協働して回収することにより、さらなるごみの減量・リサイクルを推進します。

また、分別を徹底し、質の高いペットボトルを回収することにより、プラスチック資源循環を推進します。

さらに、コミュニティビジネスの要素を取り入れることで、自律的な地域運営へ寄与し、活力ある地域づくりに貢献します。

大阪市では、この新たなペットボトル回収・リサイクルシステムを「みんなでつなげるペットボトル循環プロジェクト」としてモデル実施するとともに、大阪府は、その成果や優良事例を府域の他市町村に情報共有し、水平展開をめざします。

柱3 海洋プラスチックごみ発生抑制のための国際協力



- 方向性
- 行政、企業、各種住民団体(NPO・NGOを含む)による先進的取組みの海外への展開

取組み例

- UNEP-IETCと連携した国際会議等での取組みの発信
大阪府・大阪市や企業等による先進的な取組みを発信するとともに、その海外展開を図り、途上国の海洋プラスチックごみ問題の解決に貢献します。



プラスチックごみ問題に関する国連環境計画シンポジウム

- 都市間協力の推進
企業の持つ先進的な技術等を活用しながら、アジア諸都市等におけるプラスチックごみ問題などの環境問題の解決に向けた取組みを支援します。



ベトナム国ホーチミン市との市長級政策対話

- その他の取組み
- 海洋プラスチックごみの削減など大阪の先進的な取組みを発信するビジュアルツールの制作
 - Team OSAKAネットワークによる海外展開 など

柱4 良好な水環境の創造



- 方向性
- 水質の保全と生物多様性を守るための水環境の創造
 - 水資源の有効利用と快適な水辺空間の保全・創造
 - 水辺空間の利活用とにぎわいの創出

取組み例

- 河川に生息する魚類調査
大阪市内河川に生息する魚類を調査することにより、大阪市の水環境についてよりわかりやすく発信します。



大和川で採れた生き物

- 帯水層蓄熱利用の促進
大阪市の地下にある豊かな帯水層を利用し、未利用な地中熱(帯水層蓄熱)の活用による省エネルギーなどに取り組みます。



- 楽しい水辺教室による水環境やプラスチックごみ問題の啓発
水辺イベントにおいて、大阪市の水環境やプラスチックごみ問題について啓発します。



楽しい水辺教室

- その他の取組み
- 水質保全に向けた、各種協議会との広域連携
 - 生物多様性に関する情報発信
 - 漁協と連携した豊かな水産資源と海洋プラスチックごみ問題の啓発 など

柱5 あらゆるステークホルダーとの連携



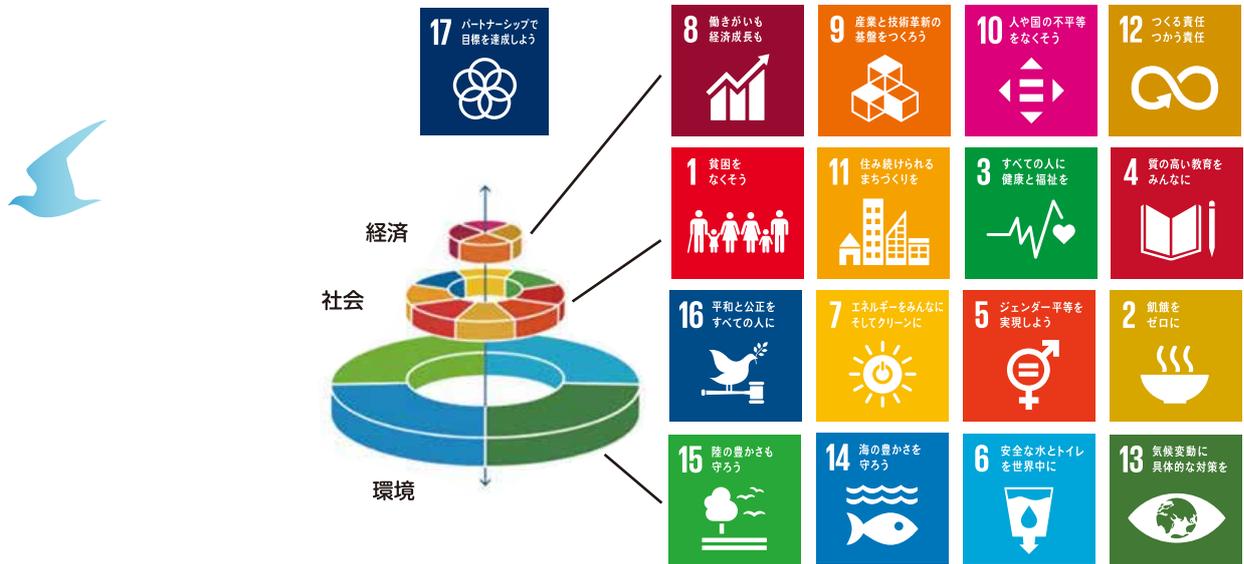
- 方向性
- あらゆるステークホルダーとのパートナーシップの構築
 - 広域連携、国際協力・協調
- 目標を達成するためのパートナーシップ構築の取組み
- 住民やNPO、事業者等と連携したプラスチックごみ減量の取組みの推進
 - 国内における広域連携
 - 官民連携による海外展開 など

∞ 計画の推進・進行管理

本計画については、大阪府が広域的観点から、大阪市が住民に身近な観点から取組みを推進していくこととしています。また、SDGsの考え方では、経済、社会、環境の三側面において、統合された形で課題を解決していくとしており、環境面から対策を講ずることにより経済・社会の課題解決に貢献する

ことや、経済面・社会面から対策を講ずることにより、環境の課題解決にも貢献することが重要となります。

このことから、本計画では目標達成に向けて、経済、社会、環境の三側面の取組みを統合的にマネジメントし、全体の最適化を図っていきます。



出典：2016年のEATフォーラムにてヨハン・ロックストロム博士とパヴァン・スグテフ氏が共同で発表したイラストを元にC1ジャパンが作成(大阪市一部修正)

大阪府・大阪市の環境部局がハブとなって各団体等の取組状況を把握し、関連する団体等の活動につなげていくとともに、国、関係自治体とも連携することにより本計画の推進、目標達成を図ります。また、本計画の進捗については、大阪府・大阪市それぞれの執行体制で管理するとともに、定期的に情報共有と施策等の検討を行うことにより、府市一体となって計画の取組みを推進していきます。

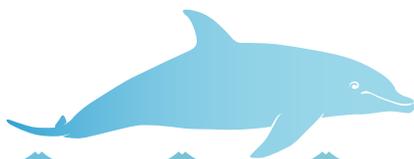
本計画の目標の達成に向け、取組みの成果を計るために設定した指標に基づき、PDCAサイクルの手法により取組みの進捗状況について毎年検証を行い、その結果は目標達成の状況とあわせてホームページ等により公表していきます。

また、「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」実行計画の成果については、自治体SDGsモデル事業の観点から三側面間の取組みごとに得られる相乗効果について指標と目標値を設定し、進捗を管理することとします。



取組みの具体例

- ① 新たなペットボトル回収・リサイクルシステムの促進(本編p27)
- ② 大阪マラソンクリーンUP作戦(本編p20)
- ③ UNEP-IETCと連携した国際会議等での取組みの発信(本編p29)



∞ 経済・社会・環境の統合的な向上をめざす施策の展開

実行計画の目標達成に向けて、住民、事業者、NPO等の団体、周辺自治体など幅広い関係者とのパートナーシップのもと、海洋プラスチックごみの削減と良好な水環境の創造

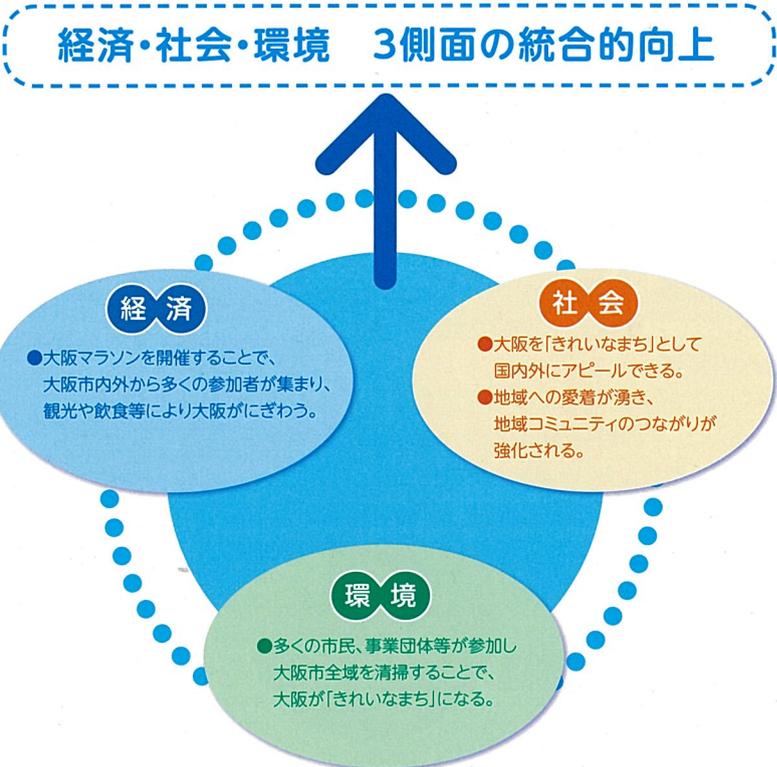
のための様々な施策を展開することにより、経済・社会・環境の三側面の統合的な向上に取り組みます。

○施策例:大阪マラソンクリーンUP作戦

「大阪マラソンクリーンUP作戦」では、大阪市内外から多くの参加者が集まる大阪マラソンの開催前に、マラソン参加者や関係者、観客を「きれいなまち」で迎えるため、市民、事業者団体等により大阪市全域を清掃しています。多くの参加者が集まることによる経済効果(経済)や、大阪の魅力向上と清掃活動を通じた地域のつながり(社会)、「きれいなまち」づくり(環境)のすべてが、つながりをもちながら効果的に発展していくことが期待できます。



▶大阪マラソンクリーンUP作戦において、清掃活動をしている様子



あらゆるステークホルダーとの連携



「大阪ブルー・オーシャン・ビジョン」実行計画

令和3年3月

発行/大阪市環境局環境管理部環境管理課

〒559-0034

大阪市住之江区南港北2-1-10 ATビルO's(オズ)棟南館5階

電話 06-6615-7984 FAX 06-6615-7949

リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。